

金町だより

气象台庁舎の改修・増築

— 由緒ある庁舎を引き続き使用 —

第7号
2013年3月4日
水戸地方气象台発行

水戸地方气象台は2011（平成23）年3月11日の東北地方太平洋沖地震により庁舎の一部が損壊し、プレハブの仮設庁舎により情報の提供を続けてきました。庁舎の改修・増築庁舎工事がほぼ終わり、新しい庁舎から情報を提供することになりました。

従来の庁舎は1935（昭和10）年に建てられ、水戸市の歴史的風致維持向上計画にも記載されているいわば「歴史的資産」です。近年増築された部分は大きな被害を負い、修理が不可能となりました。しかし、主要な部分は修復し、今後も使用していくことになりました。

この従来からの庁舎は昭和初期にモダニズム建築家として名をはせた堀口捨己（ほりぐちすてみ、1895-1984）氏の設計によるものです。堀口捨己氏は、水戸地方气象台（建築当時は水戸測候所）以外にも、九州气象台（1931年築）、大島測候所（1938年築）、神戸海洋气象台（1938年築）など、数々の气象台、測候所の設計・建築に携わりましたが、長い年月が経ち、これらの建築はほとんど現存していません。

左の写真は1935年10月に撮影された水戸測候所の全景で装飾を排しシンプルな外観ですが、室内の温度に配慮し、全体に庇を設けるなど、機能を追求した建物となっています。また、右は完成予想図で、従来の庁舎の左奥（北西側）に新しい庁舎の入口が見えます。（図では従来からの庁舎も白色となっていますが、新築当時と同様の淡緑色になります）。

4月以降は、「堀口庁舎」として、防災連絡会の開催など会議室として使用する予定で、現在最後の仕上げと周辺の整備を行っています。また、震災以降中断していた气象台の見学も再開できる見込みです。

由緒ある庁舎を修復し、新しい庁舎をえて、气象台はこれからも適宜的確な情報の提供に努めてまいります。

（水戸地方气象台見学については、総務課 029-224-1107 までお問い合わせください。）



1935年10月に撮影された水戸測候所



完成予想図